

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2774600551		
法人名	医療法人 千輝会		
事業所名	グループホーム神田イン国分		
所在地	大阪府柏原市片山町1-24		
自己評価作成日	平成 29年 11月 16日	評価結果市町村受理日	平成 29年 12月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kani=true&amp;JikyoSoCd=2774600551-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kani=true&amp;JikyoSoCd=2774600551-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 12月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が、自分らしく暮らしていただきたいという理念を掲げておりますように、外出する事や部屋でゆっくりして頂く事は自由にさせていただいてますが、おのずと皆様がホールに出て来られ、職員とお話したり、一緒に洗濯や食事の用意、片付けなどをされています。玄関扉に施錠をしていない為、地域の皆様、家族様が毎日訪問して下さいます。また、退去なされた家族様がお見えになられたり、電話がかかってくるたびと、途切れない関係が続いております。母体の医療法人との連携を密にとっており、定期往診、急変だけに関係なく数多くの助言もいただける環境にあります。介護と医療双方からのケアで安心を入居者様に提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体として開設した2ユニットのグループホームです。駅に近い交通の便の良い静かな住宅街の一角にあります。ホームの前には桜並木が続く川が流れていて、暖かい季節には利用者・職員はベンチ等に座って外気浴を楽しんでいます。また、周辺は住宅や商店があり、散歩や買い物・外食に出かけています。食事やおやつは全部手作り家庭的な味付けを大切にしており、利用者から好評を得ています。職員がそれぞれ委員会「生活の質向上・行事・環境・感染」に参加し利用者の望んでいることは何かを検討することで、利用者一人ひとりの希望を叶えることに繋がっていることを管理者は誇りに思っています。市担当課や地域関係機関との連携も進んでおり、平成29年10月の台風の際には市のアドバイスどおりに災害時自主訓練を行っていたことで非常時の対応が迅速に行われました。今後に向け、更に質向上の為に努力をしているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b>                      地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「共に生活される方々のこれまでの人生を尊重し、落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らす事が出来るように、私たちは温かく支援します」を理念として掲げ、運営理念を研修計画に組み入れ、職員は共有し再確認しています。</p>	<p>管理者や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。「共に生活される方々のこれまでの人生を尊重し、落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らすことができるように、私たちは温かく支援します」をホーム理念として、玄関等ホーム内に掲示しています。管理者は、年度初めの所内研修において「運営理念とは」と題して説明し、職員が理念を再確認し研修を通して考えを共有しあう機会を設けています。管理者・職員は理念達成に向け日々介護実践に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p><b>○事業所と地域とのつきあい</b>                      利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>地域との交流を深めるため、ボランティアの皆様に来ていただくことだけでなく、積極的に入居者様が地域に出かけに行ける機会を多く持つことを継続しています。</p>	<p>利用者と職員は、市が主催する行事の「柏原市平和展」などに折鶴を折って作品を届けに参加して、地域住民との交流を図っています。また、ホームで開催する夏祭りで披露される地域ボランティアによる「河内音頭」は、利用者が座ったままでも踊ったり歌ったりでき、近隣住民との楽しい交流の場となっています。ホームでは、住職による傾聴ボランティア、ドッグセラピー、ギターのひきがたり、落語家など多くのボランティアの協力を得ています。また、ホームでは年2回、認知症の理解を得るための「地域勉強会」を開催しています。「地域勉強会」開催に向けては、市役所、認知症サポート医、病院、介護支援専門員協会、家族の会等多くの地域関係団体との協力があります。「地域勉強会」には、多い時には100名以上の地域住民の参加があり、地域に密着した取り組みが進んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p><b>○事業所の力を活かした地域貢献</b>                      事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>年に2回、地域の方に向け認知症を理解して頂くための勉強会を行っています。また、認知症家族の会への毎回の参加では、家族様へのご相談にのる事もあります。</p>		
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、市職員、包括職員、民生委員、入居者家族、地域での関わりある方々が会議に出席いただいています。実際取り組んでいること、研修の内容の説明等、また皆様から意見を伺う事で今後の実践に繋げて行っております。</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回開催し、議事録を作成しています。会議は、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、地域関係者、市担当者、ホーム管理者、職員等の構成となっています。ホームの状況、行事、活動報告、研修報告、事故報告などを議題にしています。管理者は、非常対策・消防訓練の際の説明を行うなどしていましたが、平成29年10月の台風の折には関係者から電話や訪問での安否の確認等があり、管理者・職員にとって心強い支援がありました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市の高齢介護課や福祉指導監査課とはいつでも相談できる関係にあります。市のGH従業者部会にも毎回参加し、市が主催する認知症フォーラムではGH代表としてパネラーとしても参加いたしました。</p>	<p>市の担当者とはいつでも相談できる関係にあります。市高齢介護課、地域包括支援センター職員とは、運営推進会議において報告、相談をして、情報提供や助言を得ています。管理者・職員は、月1回の市が主催するグループホーム従業者部会に参加して情報交換等を行い、また、「地域勉強会」を開催するにあたり市担当者と相談し、連携を密にしながら実践しています。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束も年間研修計画に組み入れており、職員同士拘束のないケアに努めています。玄関に鍵をかけず、禁止するような言葉や行動をさえぎらないケアを常に職員同士で話し合う機会があります。委員会を立ち上げており、月1度の話し合いで拘束に繋がる事案はないか予防に努めています。</p>	<p>職員は所内研修会で身体拘束廃止や人権について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。「身体拘束ゼロ宣言」をホーム内に掲示しています。日中、玄関のドアや門扉は開錠しています。エレベーターの利用も自由です。外出希望者には、職員の見守りと付き添いで対応をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修等に参加出来る機会があれば、伝達研修を行っており所内で全職員が周知しています。また言葉の抑制、などについて毎日の申し送り等で所内で振り返る事でケアの見直しに繋がっています。虐待についても委員会を立ち上げており毎月1度虐待に繋がる事案はないか話し合い予防に繋がっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに研修に参加を行い学ぶ機会を持っている。当ホームでも成年後見人制度を利用されておられる入居者がおられ、機会あるごとに後見人にご相談しています。		
9		○契約に関する説明と納得 管理者が入居者様、家族様より十分な契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居者様、家族様より十分な時間をいただき説明を行っており改定のある場合などは、文章をもって正確に説明し、ご理解納得の上ご同意を得ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様とじっくりお話しをさせていただくとき、また家族様訪問時などご意向やご意見を伺いやすいよう常に気を配った態度で接しています。ご意見箱の設置、苦情等も速やかに対応させていただいております。</p>	<p>家族は運営推進会議に参加し、意見や要望を出しています。また、職員は面会時に家族へ細やかにホームや利用者の状況報告をするなどして、意見が表出しやすいよう努めています。利用者一人ひとりの「ホーム便り」には、利用者の笑顔の生活風景と担当者・計画作成担当者からの一言を載せて毎月家族に送付しています。また、1年に1回「ホーム便り」を冊子にしたものも送付する等しています。家族が気づき・苦情・意見を記載できるよう玄関入口に意見箱を設置しています。</p>	
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の全体会議やフロア会議等で職員の意見や思いに耳を傾けるだけでなく、職員個人との面談などで、普段意見の言われない職員の思いも汲みいれるような機会を作っています。</p>	<p>管理者は、月に1回の全体会議を開催し、職員が意見や要望を出せるようにしています。会議では、入居状況・人事・労務・看取り介護の振り返り・所内研修・各委員会からの報告・業務等について意見交換を行っています。職員間には自由に意見を表出できる雰囲気があります。管理者は、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した勤務になるように心がけています。</p>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	代表者の理事長は職員各自が向上心を持って働くことが出来るように、研修や勉強会に積極的に参加を勧め、また職員の努力や実績に対しても、正當に評価されています。より良い職場環境の整備を実践する事に努めておられます。		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めています</p>	研修を受ける機会を確保し、また必要に応じて、研修を探し受けてもらっています。研修報告書を書くだけでなく、内部研修として、発表する機会を促しています。		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	従業者部会での司会等担当したり、地域での勉強会での段取りを組んだりしています。月に何度か同業者事業所を訪問や見学に伺い、サービスの向上に繋がる事を研鑽しています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	サービス導入前にはご本人とも何度か面談し、ご本人のニーズは何か見極めるようにしています。また、安心してサービスを受けたいだけのように、関係づくりに努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、家族様が納得いかれるまで必ず毎日ご本人のご様子を電話連絡しています。家族様のご要望もお聞きしより良いサービスの提供が出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居される前に家族様と何度か面談し家族関係にも配慮した暫定計画を作成しています。前もって暫定計画を職員にも回覧し、計画について話し合う機会を作っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は運営理念を基本に、自立支援を念頭に置き、入居者様の立場に立つケアを行い、暮らしを友を共にする関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に職員はご本人と家族様の絆を大切に思っています。事業所での生活を定期的に報告し、家族様の考えもお聞きし、共に本人を支える支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方が面会に来られたり、通っていた喫茶店に職員が同行し訪ねたりしています。またご家族様の協力のもと、家に帰ったり外出されたりと関係継ぎや続の支援をおこなっています。	近隣にある馴染みの喫茶店に職員と一緒にモーニングに出かけたり、家族と美容院や墓参りに出かける利用者もいます。職員は、はがきや年賀状を出す支援も行っています。ホームでは馴染みの関係が途切れないような支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行やご本人の性格なども配慮し、自立支援を妨げない、入居者様同士の会話や関係がスムーズにできるような席の配置など考えています。また自然に関わり合いを持てるように職員が支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した入居者の家族様にも、行事がある度にご連絡をしています。また、近所まで来たからと立ち寄って下さる家族様もいらっしゃり、思い出話や家族様の今のお話を聞かせてくださいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営理念を基にご本人の思いを大切にし、本人本位のケアを実践しています。毎日の申し送りの中で、気付きなど職員間で共有し、フロア会議でも検討しています。	計画作成担当者は、利用者・家族から入居時に一人ひとりの思い・意向を把握し、介護計画に活かしています。入居後は、「気づきシート」や「あなたの姿シート」に利用者の思い・意向を把握した事を記載し、介護日誌を毎日丁寧に記録することで、利用者一人ひとりの思いを汲み取るようにしています。記録類は利用者と職員の会話の内容や表情が読み取れるようなものとなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴なじみの暮らしは職員間で共有できるように整備しており、日々の変化などから家族様にお聞きする機会ももうけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日出勤している職員は、入居者様と関わりを持つことの中で、気付きなどを記録し、職員全員が入居者様の情報を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>各入居者様の項目チェックをその日勤務職員が毎日記録し、日々の変化を共有し意見を述べる機会があります。定期的な担当者会議で意見を言うだけでなく、必要に応じて開いており、ご本人に関わる方からのご意見も求めています。</p>	<p>介護計画はモニタリングを行い、6カ月を原則として見直しています。毎日、チェックシートや介護記録を丁寧に記載することで利用者の思いや要望を汲み取っています。変化のあった時、統一したケアが必要な場合には家族、医師、看護師、担当者、介護福祉士、計画作成担当者等様々な職種でカンファレンスを実施しています。必要時には都度計画の見直しを行っています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入居者様の状態の変化等、毎日の記録に記載しています。記録による入居者様の状態の把握するだけでなく、主治医や関係者にも助言を求め実践に繋がっています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご本人様のニーズや取り巻く状況に対処出来るように、職員間や事業所で連携を取り、支援やサービスを行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域との繋がりが継続出来るよう、園児の訪問、中学生の学習体験を受け入れています。また、地域の行事にも参加し外部との関わりを多く持てるように協力しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様や家族様の希望を取り入れ適切な医療を受けられるように支援しています。状態や薬剤の情報交換する等連携に努めています。入居前にかかりつけ医や受診希望を確認し家族様と協力し通院介助を行っています。	利用者が、かかりつけの医師や家族の希望する医療機関で受診できるよう支援しています。受診の際、通常は家族が同伴しますが、必要に応じて職員が通院介助を行っています。訪問看護師のオンコール体制と母体法人の医師による往診があり、夜間・緊急時の医療連携体制も整備しています。主治医との関係を密にし、指示を得ています。主治医との連携で地域の薬局から薬剤指導を受けることもあり、利用者・職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算をとっており、日常の健康管理や訪問介護だけでなく、24時間必要な助言も常にいただいています。ドクターとの連携も取れ、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	急変時の受け入れ先病院は事前に伺っており、入院が必要になった場合は主治医から病院に連絡し情報を交換しています。また総合病院との連携も取っており、緊急連絡カードを各個人が所持し、診療に必要な情報はIDナンバーにて管理保管されています。入院された場合も早期退院に向け常に連絡を取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のあり方、看取りについて入居時に事業所で出来る事を十分に説明を行い、看取りの指針に同意を得、署名捺印を頂いています。終末期ケア時には計画書の見直しや話し合いを持ち家族様の意向を再度確認しています。職員は日常の健康管理、急変時の対応等、研修を行っています。	入居時に利用者・家族へ「重度化した場合における指針」を説明し、同意書を交わしています。利用者が重度化した場合、再度家族に意向を確認し、医師や看護師と連携を取りながら希望に沿った支援を行っています。管理者は「看取りについて」の研修を行い、振り返りをする等して職員間で話し合いをしながら支援に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の研修計画に組み込んでおり、急変や事故発生に備えて職員全員が対応出来るよう、訓練し実践力を身に付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p><b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力の基、年2回の火災非難訓練を実施しています。また今年度より、市の危機管理課の協力を要請し、災害訓練も始めました。運営推進会議を通じて災害時には地域の皆様や家族様の協力もお願いしています。備蓄品に関しても、カセットコンロを用意しており、温かいものも提供できるように配慮しています。</p>	<p>年に2回、消防署の協力を得て火災・災害を想定した避難訓練を定期的に行っています。台風時の水害対策として市の危機管理課の協力でマニュアルの整備と災害訓練を行いました。危機管理課のアドバイスで行った災害訓練によって、平成29年10月の台風での緊急事態に対して迅速に対応することができました。その際には運営推進会議参加者や地域関係者からの安否確認もありました。備蓄について、食料・水は各フロアに準備しています。</p>	
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>運営理念にも掲げていますように、常に一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように自己点検の機会を持ち正しい対応の仕方を確認しています。</p>	<p>管理者は、個人情報保護やプライバシー保護、接遇の研修を実施しています。職員は丁寧で穏やかに利用者一人ひとりに接しています。居室は施錠が可能で内、外から開けられるようになっています。利用者一人ひとりのプライバシーを損ねない支援をしています。</p>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p><b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>押し付けないご自身で選択出来る機会を意識して取り入れています。ゆったり寄り添える場面を提供して、行動やコミュニケーションから思いを汲み取ることに努めています。</p>		
38		<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>運営理念で掲げているように自分らしく暮らしていただく事を念頭に置き、職員はご本人に合わせたペースや希望に応じ話し合い、その日によって一日を過ごしていただいています。</p>		
39		<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご自分で更衣出来る方はそれぞれで選ばれます。外出の際など特に洋服バックなどTPOに合わせた選択肢を何点か提案し選択して頂いています。清潔な身だしなみを提供できるよう職員一同努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事を一緒に作るのが困難になってこられても、お米とぎや配下膳、食器拭き等、食事作りの雰囲気等を常に感じて頂いています。外食や、ピクニックなど、好きなものを食べたり、楽しんで食事が出来るような環境も提供しています。</p>	<p>ホームでは朝、昼、夕3食を各フロア内キッチンで職員が手作りしています。フロア毎に利用者の好みを取り入れて献立を作るため、それぞれメニューが異なります。食材は業者から納入していますが、職員が利用者と共に食材購入にも出かけます。食事の準備や後片付けは利用者も各々できる範囲でお米とぎ、お茶碗拭き、下膳等職員と共に行います。おやつ作りも季節に応じて栗ぜんざい、月見団子、おはぎ等を楽しんでいます。気候の良い時は、近くの公園に手作り弁当や取り寄せた出前のほかほか弁当を持参して出かけ、うどんやケーキ、お寿司等外食も楽しめます。お花見には家族と共に手づくり花見弁当を楽しんでいます。</p>	
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者様の状態に応じた食事形態、水分量、食事バランス等を、主治医や看護師の助言をいただき提供しています。また摂取量や水分量は記録し、主治医や看護師、職員共、把握しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に応じた口腔衛生を食事後に適切に行われるよう口腔内清潔保持に努めています。必要に応じ訪問歯科医や歯科衛生士より診察や助言をいただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態を把握する為、正確に記録をとり、一人ひとりの排泄パターンを知り職員で共有しています。失禁を無くし、早めの誘導でご本人に不快を感じてもらわないよう支援しています。また布パンツを着用の方には長くその状態が継続できるように支援しています。	水分摂取量と共に排泄チェック表を作成して、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しています。昼間は、体調の悪い利用者以外は全員声かけをしながらトイレでの排泄支援をしています。入居時は立位も困難でおむつ使用だった利用者が、職員の工夫により歩行器使用から今では布パンツを使用して自分でトイレでの排泄ができるようになった事例があります。布パンツ使用者にはこの状態が長く維持できるように職員は工夫を重ねています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便を促すように、水分摂取には配慮しています。便秘が起こりにくいように体操や歩く事を職員と一緒に日々行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日健康チェックを行い入浴を促しています。月に一度温泉の日を作り、季節のお湯を入居者様に楽しんでいただいています。清拭になられている方も入浴剤を用い温泉気分を味わってもらう事もあります。	入浴チェック表を作成して利用者の入浴状況を把握しています。入浴は希望すればいつでもできます。毎日入浴する利用者もあります。重度の利用者には職員二人介助でゆっくりと湯船に浸かって入浴をして喜ばれています。体調が悪い時は清拭やシャワー浴等も取り入れています。入浴を楽しむために、生活の質向上委員会で話し合っ月毎にレモン湯、しょうぶ湯、ミルク湯、リンゴ湯等、入浴後の飲み物と共に工夫をして利用者から大変好評を得ています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なじみのある形態で就寝を支援しています。事業所には和室があり、昼寝を和室でしたい方には自由に休息していただいています。部屋にもどって休息したい方にも制限をしておらず、部屋まで職員と一緒に付き添い、臥床されるまで見守りしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に医師や薬剤師と連携をとり、指示に従っています。複数の職員で服薬確認を行い、服薬による症状の変化など気をつけるように毎回申し送り時確認を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人や家族様からお話を伺い、生活暦等も踏まえながらそれぞれの役割に生きがいを感じてもらえるよう支援している。楽しいと思ってもらえた事を職員で共有し、喜びのある暮らしが出来るよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々のコミュニケーションの中で情報を集め、家族様に外出、外泊の要望などご本人の思いを伝えています。また、日常的に散歩に行く事、買い物に行く事など、自由に出入りできるよう玄関には鍵をかけず、職員が同行させてもらいながら支援しています。	天気の良い日には近くを散歩したり買い物に出かけています。前庭で季節の花を眺めながら外気浴もします。気候の良い時期は家族を誘って花見に出かけたり、近くの公園でランチを楽しみます。重度の利用者も他の利用者と一緒にペースト状の食事を作って出かける機会を積極的に作っています。家族と共に外食や美容院、墓参りへ行ったり、自宅に帰る利用者もいます。学生の体験学習や研修会を利用して、利用者は学生と散歩をしながら会話を楽しんでいます。市の行事にも参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心される方は所持していただいています。無くさないように、毎日確認しています。買い物などもご自身でいただき、支払いもお願いしています。新聞や乳飲料など定期購買されている方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b>                      家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族様から毎週手紙が届く入居者様には返事を書いて頂いたり、遠く離れた娘様に写真付きの葉書を書いていただく支援をしています。</p>		
52	19	<p><b>○居心地のよい共有空間づくり</b>                      共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じて頂けるよう、花を飾ったり、季節の飾りつけをしています。また廊下には家族様との写真などを貼り、なじみの空間を保つよう配慮しています。子供っぽい飾りつけは止め、落ち着いた雰囲気です。この場所は普段利用者が洗濯干場に利用していますが、冬場はこたつを用意します。共用空間にはひとりになれる場所も随所に用意されています。廊下や玄関は明るく、空気清浄機を設置して、外部からも訪問しやすくすっきりとしています。ロビーの隅にあるオープンキッチンからは食事の準備の音や美味しいにおいが香り、キッチン越しに職員と利用者の会話が弾んでいます。</p>	<p>利用者が集まるロビーは広くて明るく、利用者はゆったりと職員との会話を楽しみながら過ごしています。ロビーの片隅には埋め込み式の畳が敷かれ、障子戸からは外の景色が見え、落ち着いた和の雰囲気です。この場所は普段利用者が洗濯干場に利用していますが、冬場はこたつを用意します。共用空間にはひとりになれる場所も随所に用意されています。廊下や玄関は明るく、空気清浄機を設置して、外部からも訪問しやすくすっきりとしています。ロビーの隅にあるオープンキッチンからは食事の準備の音や美味しいにおいが香り、キッチン越しに職員と利用者の会話が弾んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルや椅子の配置は入居者様の状況により職員同士で考え変更しています。和室での対応やソファーに移動され落ち着ける場所の提供を実践しています。庭にはベンチを置き、外の景色や空気を吸って気分転換をされる入居者様もいらっしゃいます。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や道具などなじみのある物を持ってきて頂いています。家族様からのプレゼントや写真など部屋にいても心地よく過せるような工夫を考え心配りをしています。</p>	<p>居室入口には、写真を貼ったり担当者の名前を飾るなど、自室がわかるようになっています。ベッド、エアコン、カーテン、クローゼット、布団類はホームが用意しています。入居時には、タンス、テレビ、時計、家族の写真、ぬいぐるみ等それぞれの思い出の物を持ち込んで、自分で好きなように配置しています。壁には家族の写真が貼ってあり、いつでも家族に思いを馳せられ安心して過ごせるようになっています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様が自由に移動できるよう、安全に配慮した環境作りと、職員がさりげない見守りで安心を提供出来るように職員が支援しています。</p>		